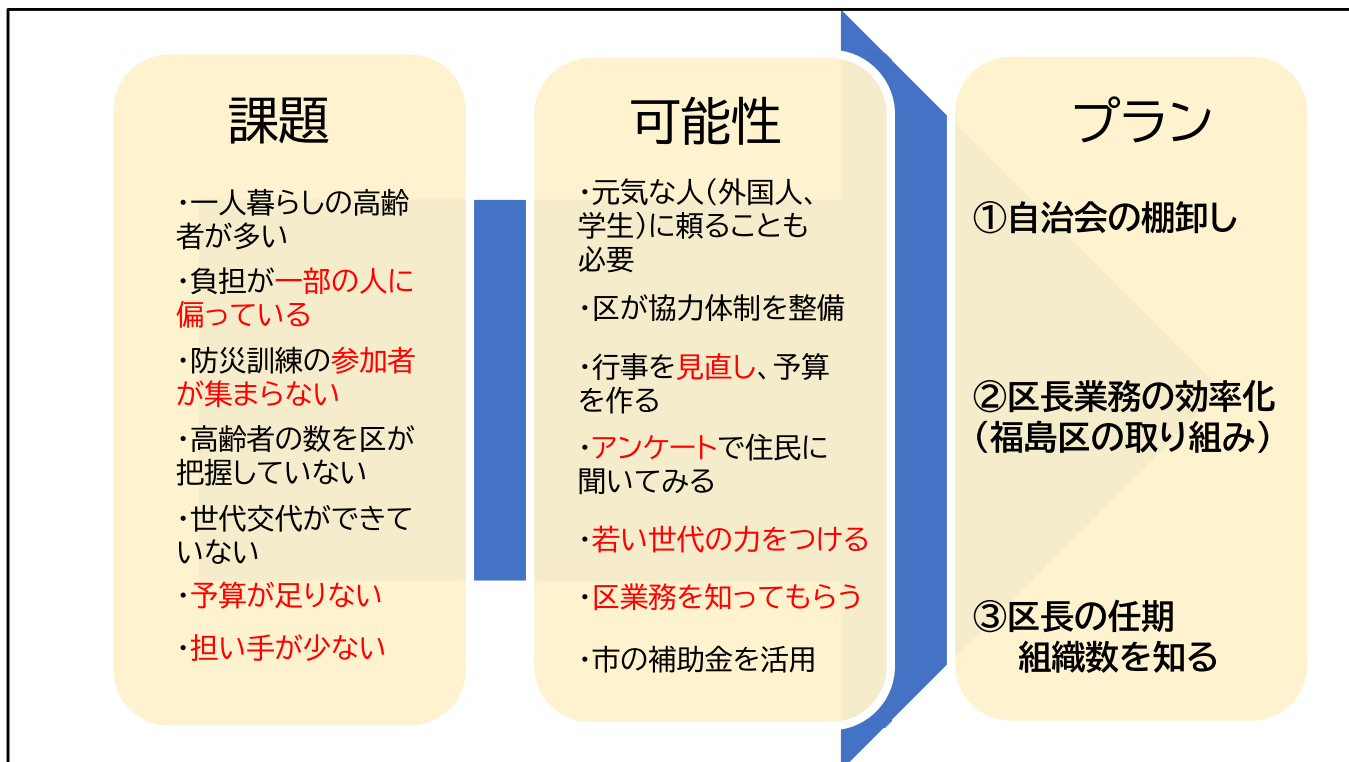


自治会業務の スリム化・効率化



【1班】

西瓜屋1の1区	済藤 清孝
福島区	半田 敏朗
社会福祉課	間海 洋一郎
市民協働課	馬場 稜河



こちらが発表の流れです。

図のように、ワークショップで出てきた「課題」、そしてそこから見える「地域の可能性」、

最後に3つのプラン

①自治会の棚卸し

②区長業務の効率化(福島区の取り組み)

③区長の任期・組織数を知るについて

以上の順で、発表いたします。

地域の問題・課題

福祉・人権・文化

- ・近所の**助けがないと生活できない**高齢者の存在
- ・ボランティアで手伝ってくれるが、**一部の人だけ**

防災・防犯・環境

- ・高齢者の数を把握していない
- ・防災訓練の**参加者が集まらない**
- ・外国人がごみを捨てられない

人材・担い手

- ・**世代交代ができていない**、息子さんが出て来ない
- ・何をしても予算が足りない
- ・区長の**担い手が少ない**(特に限界集落)

高齢化

負担の偏り

環境の変化

様々な意見

人手不足

世代交代

自治会運営の今後

地域の問題・課題についていくつか取り上げます。

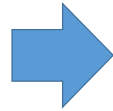
近所の助け合いがないと生活できない高齢者の存在やそれを支える人が少ないこと

高齢者が多すぎて数を把握していない、地域の防災訓練に人が集まらないこと
世代交代ができておらず、区の行事に息子さんが出て来ない、何をしても予算が足りない、区長の担い手が少ないこと等が挙げられました。

特に人手不足や負担の偏りといった少子高齢化から生じる課題が共通して、多く出てきたように感じます。

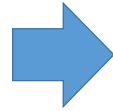
地域の可能性

人手不足



- ・**元気な人に頼る** (外国人、学生など)
- ・壮年会などの若い世代の力をつける
- ・地域の**様々な意見を理解**する
- ・市の**取り組みを積極的に活用**する

負担の偏り



- ・アンケートで行事の**需要を把握**する
- ・区の**行事を見直し**て、負担を軽減
- ・**区長の業務を知ってもらう**

それらの課題を地域の可能性と捉え、出てきた意見がこちらになります。

まず、「人手不足」に関して

元気な人に頼ることが突破口になるのではないかと考えました。若者だけでなく外国人や学生などもその対象になります。

また、地域の様々な方々からの意見に耳を傾けることで、地域の実情を知り、人手不足の解消の手がかりを得れるのではないかと

意見を拾うためにアンケートや市の取り組みを積極的に使うと良いのではないかと
いう意見も出ました。

次に「負担の偏り」に関して

そもそも区のお祭りや清掃活動など地域行事がどのくらいの規模で必要か、需要を把握することや、

行事のやり方を見直して役員の負担を軽減すること等が挙げられました。

その他、区長業務が膨大で負担が大きいということが、他の区民からなかなか理解
が得られないという意見から、

まずは区長業務を知ってもらうことから始めるという意見も出ました。

アクションプラン①

自治会の棚卸し

男性ばかりで運営



女性・若者の意見を
取り入れる



地域の資源・意見・情報を把握

様々なツールを活用

○アンケート

区の規模に応じてインターネットで集計する等の工夫も必要

アンケート(案)
○の振り
1 2 3 4 5
1 必要
2 やや必要
3 どちらでもない
4 やや不要
5 不要
理由

○会議の開催

様々な世代の住民の意見を直接聞いてみる



○みらいミーティング

【市民協働課事業】

行政区単位で、自治会の課題整理や意見交換を実施する



1つ目の案として「自治会の棚卸し」を考えました。

自治会の事業の見直し、需要の把握をすることで地域の分析ができ、運営の効率化、負担軽減に繋がらないかと考えました。

今までは男性ばかりで、女性や若者はなかなか自治会運営に口出しできない空気になっている地区もあると聞いていますが、

地域の資源・意見・情報を適正に把握することで、自治会を支えてくれるような人々を若い世帯や女性からも増やしていくことが大切です。

率直な意見を聞くために、アンケート調査が有効ですが、集計業務が逆に負担の増加になってしまう場合は、インターネットで実施するなど、規模に応じた工夫も必要です。

また、区民の方々と実際に集まって意見を直接聞くことも考えられますが、ハードルが高いと感じる場合は、

市民協働課の取り組みとして「みらいミーティング」というものがあります。

自治会を対象に地域住民を集めて課題を整理したり、意見を交換できるような場を提供する取り組みで、行政区単位で開催できます。

「率直な意見を聞きたい」「区全体で自治会について考えたい」などの要望があれば、市民協働課の馬場までご連絡ください！！

自治会活動への関心が弱くなってしまった今、本当にこのままでいいのか、今一度区の在り方を再考する時期になっている。

区の未来を地域みんなで考える必要があるのではないか。という意見がありました。

アクションプラン②

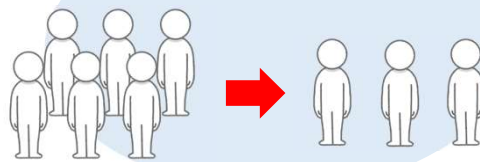
区長業務の効率化（福島区の取り組み）

業務をできるだけ**シンプル**に！ 減らせるものは**減らす**

①集会の前に
レジュメを作成



②班長の
人数を見直す



③無料の
サービス
を活用する



④区長業務を
見える化する



⑤区長業務の
マニュアル化



次に、2つ目の案として、効率化に関する福島区の取り組みを紹介します。
今回は、実際の取り組みのうち5つを紹介させていただきます。

まず、1つ目は、集会の前にレジュメを作成し事前に目を通してもらってから集会を開催しています。そうすることで、事前に議題を理解した状態で集まることができ、当日の終了を早めることができています。

次に、2つ目は、班長の人数を見直しました。私の区では以前まで6人の班長を置いていましたが、3人に削減しました。班長が減っても以前と同じように運営ができ、連絡も取りやすくうまく効率化できたのではないかと思います。

続いて、3つ目は、無料のサービスを活用しています。具体的にはグループLINEやグーグルの掲示板を使っています。グループLINEは連絡を取ることが楽で、既読が付くので情報の伝達漏れがありません。

4つ目は、区長業務を**見える化**することです。区長の業務をGoogle掲示板に載せ、若い壮年会のメンバーにも共有しています。すると、区長業務の中身や大変さを理解してくれて協力してくれる方も増えてきました。誰が区長になってもある程度区長業務を理解していると、いざ区長になったときも安心して担うことが出来ると思います。

最後に、5つ目は、区長業務の完全マニュアル化を図り、業務をまとめた「区長日記」をデータで作成しています。その結果、区長が交代しても日記を見れば業務の流れや全体像をつかむことができます。

以上が福島区の取り組みの一部です。
区によって事情は異なると思いますが、参考にできる部分は参考にいただければ幸いです。

アクションプラン③

区長の任期、区の組織数を知る

「他の区の運営方法を知りたい。」
 「区長任期は2年が当たり前だと思っていた。」
 「婦人会がなくなり子ども会も最近なくなり役員会しかない。」



集落カルテで比較

区長任期について

	任期			人口	任期		
	1年	2年	3年以上		1年	2年	3年以上
限界	62.5%	29.2%	8.3%	~99	65.8%	29.9%	4.3%
準限界	60.8%	34.6%	4.6%	~199	79.2%	18.4%	2.4%
存続	84.8%	15.2%	0.0%	~299	86.5%	13.5%	0.0%
				~399	85.2%	14.8%	0.0%
				~499	73.9%	26.1%	0.0%
				500~	63.0%	37.0%	0.0%

※限界集落……人口の50%以上が65歳以上
 ※準限界集落……人口の50%以上が55歳以上
 ※存続集落……それ以外の集落

組織数について

	組織数平均	人口	組織数平均
限界	2.22	~99人	2.59
準限界	3.9	~199人	4.01
存続	4	~299人	4.56
		~399人	4.75
		~499人	5.08
		500人~	5.11

※区の組織……役員会、子ども会、青年会、シニアクラブ、婦人会、集落営農組織、福祉の会、自主防災組織

3つ目は、区長の任期、組織数を知るについてです。

グループワークの中で運営のスリム化をするために他の区の運営方法を知りたいという意見等を受けて、

今回は限界集落、準限界集落、それ以外の存続集落に分けたものと人口数を6つの区分に分けたデータを作成して、
 区長の任期と組織数を比較してみました。
 その結果がこちらです。

集落カルテでは右下の8つの組織について組織されているかを聞いています。
 結果は、存続集落でも平均では半分の4つの組織の組織数であり、限界集落では、役員会と子ども会のみという回答が多くみられました。
 人口数で比較した組織数も表のとおりです。

会場の皆さんも坂井市のHPに行政区ごとの人口が月ごとに出ていますので、人口ごとの平均と比較してこれからの運営の参考にしてみてください。

安心して継続できる 自治会運営

- ✿ 住民が区のことを自分事として考えてくれること
- ✿ 区長が業務の全容をある程度把握していること
- ✿ 業務量や負担などが適当であることを知ること

以上のことから、私たちのグループが掲げた自治会の未来像は「安心して継続できる自治会運営」です。
自治会運営にはやはり、「安心感」が重要ではないかと思いました。

その安心感は
住民が一緒になって区のことを自分事として考えてくれることや
区の業務を担うことになった人がある程度業務の全容を分かった上で始めること
が出来ること、
また、他の区と比べて区の業務量や負担などが適当であることを知ること

などによって得られるものだと考えました。

まとめ

- ・環境が変わってきて今まで通りでは自治会運営は難しい
- ・事業や運営を見直すことが大切
- ・集まり、対話を通して様々な意見を取り入れる
- ・便利なツールや手段の活用
- ・他の自治会の意見や運営を参考にすることも

そして、持続可能な自治会へ・・・

まとめです。

環境が変わってきて今まで通りでは自治会運営は難しくなってきました。

そこで、事業や運営方法、区の在り方など見直すことが大切であり、そのために対話を通して住民の様々な意見を取り入れなければなりません。

意見を取り入れるために、便利なツールや市の取り組みをうまく活用し、時には他の自治会の意見や運営から学んで、徐々にスリム化することで、負担が少なく安心感のある自治会になるのではないのでしょうか。

そして、それが持続可能な自治会が増えることにつながると思います。

自治会WSに参加して感じたこと

- 済藤 ・自治会運営は、どうしても大変だ・面倒だというイメージがあり、やりたがる人は少ない。自治会業務のスリム化・効率化は人手不足の解決に繋がる大切な事であり、そのような視点も持ちながら持続的な自治会運営を進めていきたい。
- 間海 ・区長さんたちから、直接お話を伺えて、地域課題の優先順位が見えてきたり、解決のヒントをいただけた。
- 半田 ・地区は異なりますが、抱える問題は同じだと痛感しました。心理的なプレッシャーや、やり残しや間違いがないか等の不安を感じる中、中々新しい取り組みやルールの改正まで手を付ける事は難しいのが現実。状況を変えていく為には、壮年会という身近な相談相手やサポーターがいる事が重要だと改めて感じた。

感想です。